

自然言語の哲学：深層学習による機械翻訳と形式意味論

オーガナイザ

菊池誠（神戸大）

提題者

小町守（首都大東京）

『自然言語処理における知識とは何か – 深層学習による機械翻訳』

峯島宏次（お茶の水女子大）

『形式意味論と計算言語学』

自然言語の意味とは何であるのかを明らかにし、自然言語の形式意味論を構築することは哲学的に興味深い問題であると同時に、機械翻訳を含む人工知能の実現に向けた工学的応用可能性の観点からも重要である。従来、自然言語の意味については Frege や Russell から始まり、Montague らによって展開された論理的手法に基づく形式意味論が重要な役割を果たしてきたが、近年、深層学習に代表される機械学習の技術が著しく発展したことによって、統計的手法に基づく計算言語学が大きな成功を収めつつある。このワークショップでは、最近の深層学習に基づく機械翻訳がどのようなもので、哲学的にはどのような内容を持つものなのか、また、現在、形式意味論はどのようなものであって、統計的手法に基づく計算言語学とどのような関係にあるのかを見ていきたい。